

スポーツによる地域活性化

〔事業責任者〕

茨城大学理学部・教授

中村 麻子

プロジェクト参加者

中村 麻子（茨城大学理学部・教授 担当：
事業担当責任者・企画立案・全
体総括）

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

平成31年開催予定の茨城国体や平成32年開催予定の東京オリンピックに代表されるような大規模なスポーツイベントを介した地域振興・活性化が注目されている。また、地元スポーツ連携型の大学による地域貢献は社会的関心が非常に高い。そうしたなか、地方国立大学として地域活性化志向力を有する人材育成を求める社会的要望が高まっている。

そこで本事業計画では、それらを推進し、また新しい方向を見出して、より地域の活性化に役立てていくため地域・自治体・産業界との意見交換、情報共有を図りながら、共同研究や協働事業等を展開する。

② 具体的な活動計画

1月に講演会および交流会を開催し、本テーマに関心のある参加者同士の意見交換・情報交換の場を提供する。

③期待される成果

大学内外の参加者による意見交換を行う中で

地域住民だけでなく受験生に対しても魅力ある地域協働型国立大学としての強みを発信できると期待する。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

1：茨城大学・茨城ロボッツ連携に関わる支援団体として「Ibaraki University x Ibaraki Robots Delegation (iBIRD)」の立ち上げを平

図2：茨城大学・茨城ロボッツ連携協定締結式の際の記念パネル

成30年8月に行った（図1）。平成31年2月現在の所属人数は69名であり、うち学生（院生を含む）が56名、教職員13名となっている。

また、iBIRDに関する情報発信源としてTwitterアカウント (@iBIRD_ibadaix) やオフィシャルメール (ibird.ibadai@gmail.com) 等を設置した。

2：平成30年8月22日にM-SPO まちなか・スポーツ・にぎわい広場にて茨城大学・茨城ロボッツ連携協定締結式および記者発表会を行った（図2、図3）。当日は三村茨城大学学長と事業担当者である山谷代表取締役社長に

図1：iBIRDのロゴマーク

よる調印式に加え、事業担当者の他にiBIRD学生も参加し、今後の事業展開について説明を行った。多くのマスコミ関係者の参加があり、本事業の関心の高さが伺えた。



図3：連携協定式の様子を紹介する産経新聞記事（平成30年8月23日記事）

3：平成30年9月15日に茨城大学・茨城ロボッツ連携記念試合として茨城ロボッツのプレシーズンマッチを青柳市民体育館にて開催した(図4、図5)。当日は、茨城大学教職員・学生に対して特別割引チケット(1000円)を販売し、多くの茨大教職員・学生に観戦の機会を設けた。また同時に、iBIRDメンバーに茨城ロボッツの試合におけるボランティアやアルバイトを募集し、実際に試合運営に関わるなど連携を強化していった。



図4：平成30年9月15日の連携記念試合で全観客に配布されたゲームプログラム



図5：平成30年9月15日の連携記念試合でのチップオフセレモニー

4：平成30年10月下旬から学内にて2020年Bリーグオールスターゲーム招致に向けた署名活動を iBIRD メンバーおよび茨城ロボッツスタッフを中心に学内で実施した。平成30年11月9日には本学で集めた署名数百枚について三村学長から山谷代表取締役社長に受け渡した(図6)。



図6：Bリーグオールスターゲーム招致にむけた署名の授与

平成30年11月13日に行われたBリーグ理事会では有効投票数全13票のうち、北海道は7票、茨城県は6票と1票差で敗れたものの、茨城県・水戸市の活性化に大きく貢献することができた活動であった。

5：平成30年11月16日-17日に実施された茨苑祭において「地域連携事業 地元プロスポーツチームとの連携紹介展示」を実施した。茨城大学が連携協定を締結しているプロスポーツチームである水戸ホーリーホック、茨城ロボッツに関する様々なアイテムの展示を通して、茨城大学の地域連携事業について紹介するイベントとして企画した。当日は茨城ロボッツ担当者から選手サイン入りユニフォームやシューズ、プロモーション動画などの提供を受け展示を行った（図7）。会期中はiBIRD学生3名が展示ブースの運営サポートを行った。2日間で多くの学内、学外参加者が来場し、連携事業の社会発信を行った。



図7：茨苑祭における連携紹介展示

② プロジェクトの達成状況

本プロジェクトは正式な連携協定を締結できたことに加え、初年度でありながらiBIRD設立、iBIRDメンバーによる連携活動への参画など実効性のある成果を出していると考えられる。今後、iBIRD主催による積極的な事業展

開を行っていくための十分な基盤が確立できたと考える。

③ 今後の計画と課題

来年度は東町体育館「アダストリアみとアリーナ」が完成し、茨城ロボッツのこけら落としゲームが平成31年4月6日、7日に予定されている。新アリーナは茨城大学からもアクセスが非常によいことから、学生による積極的なボランティア活動の参画を行う。また、バスケットボールや運動部と連携し、茨城ロボッツが主催するスポーツイベントへのサポーターティングコーチとしての参加や、学生（iBIRDメンバー）によるシーズンゲームの試合運営体験などを通して、茨城ロボッツ事業と強く連携していく。また、平成31年度はカリキュラム改正後初めてのiOPクォーターが実施される。iOPクォーターでは茨城大学学生が積極的に茨城ロボッツ事業へ参画できるように体制を整える。茨城大学は地方総合大学として、スポーツ・食・科学・文化等幅広い専門性を有することから、本事業を通じたこれら専門的知識の共有さらには茨城ロボッツとのコラボレーション展開を目指す。



図8：本事業を紹介するのぼり旗デザイン